

教育科目	教育内容	教科名	1年生		2年生		3年生		4年生		合計		実務経験担当教員 (修学支援)		
			単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間			
自動車工学	自動車の構造、機能	エンジン構造Ⅰ	1	27.0							1	27.0	○	住本直哉	
		エンジン構造Ⅱ	1	27.0							1	27.0	○	住本直哉	
		シャシ構造Ⅰ	1	27.0							1	27.0	○	中澤輝行	
	電気、電子理論	シャシ構造Ⅱ	1	27.0							1	27.0	○	中澤輝行	
		電気工学Ⅰ	1	27.0							1	27.0	○	三宅伸和	
		電気工学Ⅱ	1	27.0							1	27.0	○	三宅伸和	
	自動車の力学、数学	基礎自動車工学Ⅰ	1	27.0							1	27.0			
		基礎自動車工学Ⅱ	1	27.0							1	27.0			
		自動車工学			1	27.0					1	27.0			
		オートメーション基礎	1	27.0							1	27.0	○	村田拳人	
	材料、図面	I T・マテリアル	1	27.0							1	27.0			
	燃料・潤滑剤	新エネルギー工学			1	27.0					1	27.0			
	危険物取扱	危険物	2	43.2							2	43.2			
	自動車の構造、性能	新自動車工学E					1	27.0			1	27.0			
	電気、電子理論	新自動車工学C					1	27.0			1	27.0			
	自動車の力学・数学	材料CAD													
	材料						1	5.4			1	5.4			
	燃料・潤滑剤							7.2				7.2			
	図面							7.2				7.2			
自動車整備	エンジンの点検、整備	エンジン整備Ⅰ			1	27.0					1	27.0			
	エンジンの点検、整備	エンジン整備Ⅱ			1	27.0					1	27.0			
	シャシの点検、整備	シャシ整備Ⅰ			1	27.0					1	27.0	○	中澤輝行	
	シャシの点検、整備	シャシ整備Ⅱ			1	27.0					1	27.0	○	中澤輝行	
	電装の点検、整備	電装整備Ⅰ			1	27.0					1	27.0			
	電装の点検、整備	電装整備Ⅱ			1	27.0					1	27.0			
	自動車の故障探究	故障探究			1	27.0					1	27.0	○	村田拳人	
	エンジン	高度エンジン整備技術					2	54.0			2	54.0			
	電装	高度電装品整備技術					1	27.0			1	27.0			
	シャシ	高度シャシ整備技術					2	54.0			2	54.0			
	故障原因探究	故障診断技術E							1	27.0	1	27.0			
	故障原因探究	故障診断技術C							1	27.0	1	27.0			
	総合診断	環境保全対策					1	9.0			1	9.0			
環境保全							9.0				9.0				
安全管理							9.0				9.0				
機器の構造・取扱い	整備作業機器、検査機器	検査機器			1	34.2				1	34.2				
自動車検査	道路運送車両の保安基準	検査法			1	27.0				1	27.0				
自動車整備に関する法規	道路運送車両法及び施行規則	法規			1	27.0				1	27.0				
機器の構造・取扱い	整備作業機器、測定機器	機器検査関係法規						10.8			10.8				
自動車検査	検査法と検査機器						1	5.4		1	5.4				
自動車の整備に関する法規	道路運送車両法							10.8			10.8				
自動車概論	自動車概論	業界研究							2	54.0	2	54.0			
サービス・マネジメント	サービス・マネジメント	I D 研究					1	27.0		1	27.0				
学科小計			12	313.2	12	331.2	11	297.0	4	108.0	39	1,049.4			
自動車整備	工作作業	手仕上げ工作	工作作業実習※1	1	23.4						1	23.4	○	村田拳人	
		機械工作	機械加工応用測定実習※2						1	5.4		5.4			
	応用計測								1	7.2		7.2			
	測定作業	基本計測	測定作業実習※1	1	48.6						1	48.6	○	村田拳人	
		エンジンの分解、点検、組立調整、検査、整備、故障探究	エンジン実習Ⅰ	6	144.0						6	144.0			
	自動車整備作業	エンジンの分解、点検、組立調整、検査、整備、故障探究	エンジン実習Ⅱ			6	158.4				6	158.4			
		シャシの分解、点検、組立調整、検査、整備、故障探究	シャシ実習Ⅰ	6	126.0						6	126.0	○	小林建次	
		シャシの分解、点検、組立調整、検査、整備、故障探究	シャシ実習Ⅱ			6	158.4				6	158.4	○	小林建次	
		電装の分解、点検、組立調整、検査、整備、故障探究	電装実習Ⅰ	6	126.0						6	126.0			
		電装の分解、点検、組立調整、検査、整備、故障探究	電装実習Ⅱ			6	158.4				6	158.4	○	三宅伸和	
		二輪自動車の点検、整備	総合実習Ⅰ	3	72.0						3	72.0	○	村田拳人	
		ガス、アーク溶接	総合実習Ⅱ			4	97.2				4	97.2	○	村田拳人	
		自動車の新機構(外部講師)	企業技術講習Ⅰ	2	54.0						2	54.0			
		自動車の新機構(外部講師)	企業技術講習Ⅱ					1	36.0			1	36.0		
		エンジンの脱着と輸入車用エンジンの分解、組立、調整、検査	高度エンジン整備実習					5	129.6			5	129.6		
	シャシの点検、分解、組立、調整、検査	高度シャシ整備実習					5	129.6			5	129.6			
	電装の点検、分解組立、調整、検査	応用電装品整備実習					5	129.6			5	129.6			
	故障原因探究	高度故障探究実習※2					2	72.0			2	72.0			
	自動車の定期点検整備	検査作業実習			2	57.6					2	57.6	○	村田拳人	
自動車の完成検査作業															
自動車検査作業	自動車検査作業実習					1	27.0			1	27.0				
サービス・マネジメント	後進への指導技術	指導員実習(テクニカルコミュニケーション)					2	54.0			2	54.0			
	校内技術コンクールに於けるチーム運営、指導	技術コンクール指導実習							1	28.8	1	28.8			
体験実習	自動車の点検整備	実務体験実習Ⅰ								5	129.6	5	129.6		
	故障原因探究														
	総合診断														
	自動車の点検整備		実務体験実習Ⅱ								5	129.6	5	129.6	
故障原因探究															
総合診断															
自動車の点検整備	点検整備実習								4	108.0	4	108.0			
評価実習	エンジン故障原因探究	エンジン故障診断実習							4	108.0	4	108.0			
	シャシ故障原因探究	シャシ故障診断実習							4	108.0	4	108.0			
	電装品故障原因探究	電装品故障診断実習							4	108.0	4	108.0			
	フロント業務・応酬話法	サービス・マイスター実習							2	54.0	2	54.0			
	問診、故障診断、作業説明	総合診断実習							4	111.6	4	111.6			
実習小計			25	594.0	24	630.0	22	604.8	33	885.6	104	2,714.4			
一般教養科目	キャリア基礎力分野	キャリアデザインⅠ	2	54.0							2	54.0			
		キャリアデザインⅡ					2	58.0			2	58.0			
		キャリアデザインⅢ					2	58.0			2	58.0			
	ビジネス基礎力分野	損害保険募集人				1	27.0					1	27.0		
		企業研究	1	27.0							1	27.0			
		企業研修			1	27.0					1	27.0			
		ビジネス能力			1	27.0					1	27.0			
		ビジネスマネジメント					1	27.0			1	27.0			
		ビジネス文書力			1	27.0					1	27.0			
		基本IT技術	1	27.0							1	27.0			
		プレゼンテーション	1	27.0							1	27.0			
		論理的思考力			1	27.0					1	27.0			
		イベントプロデュースⅠ	1	27.0	1	27.0					2	54.0			
		イベントプロデュースⅡ					1	27.0		1	27.0	2	54.0		
ボランティア活動Ⅰ	1	27.0	1	27.0					2	54.0					
ボランティア活動Ⅱ							1	27.0	1	27.0	2	54.0			
必修・選択科目小計			7	189.0	7	189.0	5	139.0	4	112.0	23	629.0			
合計			44	1096.2	43	1,150.2	38	1,040.8	41	1,105.6	166	4,392.8			

※1 工作作業実習と測定作業実習は2教科の合計で2単位とする。

※2 機械加工応用測定実習と高度故障探究実習は2教科の合計で3単位とする。

科目名	エンジン構造 I		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ガソリン・エンジンに関する基礎知識(エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など)を学習し、理解する。 二輪自動車のエンジン関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。							
授業の一般目標	3級自動車ガソリン・エンジンの国家試験に合格できるレベルの基礎知識を習得する。 二輪自動車のエンジン関係の構造、作動を習得し、整備するための基礎、基本を理解する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	3級自動車ガソリン・エンジン ガソリン・エンジン構造 三級二輪自動車							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. エンジンの部品の名称や、基本的な構造・作動、整備に必要な計算式等を理解することが出来る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることが出来る。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることが出来る。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	総論	自動車の歴史についての説明が出来るようになる。				四輪・二輪共通		
第2回	総論	内燃機関の分類についての説明が出来るようになる。				四輪・二輪共通		
第3回	エンジン本体	シリンダ、ピストン、クランクシャフトなどを理解し、説明することが出来るようになる。				四輪①		
第4回	エンジン本体	フライホイール、カムシャフト、やバルブ機構の部品名称や構造・作動を理解し、説明することが出来るようになる。				四輪②		
第5回	エンジン本体	バルブタイミングダイアグラムの作り方や、トルク、排気量等の計算を理解し、説明することが出来るようになる。				四輪③		
第6回	エンジン本体	2、4サイクルエンジンの作動 燃焼 熱効率 についての説明が出来るようになる。				二輪①		
第7回	潤滑装置	4サイクル、2サイクルエンジン潤滑装置 ポンプクリアランスについての説明が出来るようになる。				二輪②		
第8回	冷却装置	空冷・水冷・油冷についての説明が出来るようになる。 冷却水の循環経路についての説明が出来るようになる。				二輪③		
第9回	冷却装置	ウォーター・ポンプ、サーモスタットなどの名称・構造・作動を理解し、説明することが出来るようになる。				四輪④		
第10回	冷却装置	冷却水の濃度と凍結温度の関係や、ラジエータ、ファンの部品名称・構造を理解し、説明することが出来るようになる。				四輪⑤		
第11回	燃料装置	電子制御燃料装置の構造・作動についての説明が出来るようになる。				四輪⑥		
第12回	燃料装置	キャブレタの概要と構造・機能の概要についての説明が出来るようになる。				二輪④		
第13回	吸排気装置	吸気系統及び排気系統の各部品の名称や、構造・作動を理解し、説明が出来るようになる。				二輪⑤		
第14回	吸排気装置	スロットル・バルブの名称や、構造・作動を理解し、説明が出来るようになる。				二輪⑥		
第15回	期末試験	期末試験				四輪・二輪共通		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	住本 直哉			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/sumimoto/			

科目名	エンジン構造Ⅱ		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	ジーゼル・エンジンとは何か、ガソリン・エンジンとの構造や作動の違い、共通点等を学習する。 二輪自動車のエンジン関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。							
授業の一般目標	3級自動車ジーゼル・エンジンの国家試験に合格できるレベルの基礎知識を習得する。 二輪自動車のエンジン関係の構造、作動を習得し、整備するための基礎、基本を理解する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	3級自動車ジーゼル・エンジン ジーゼル・エンジン構造 三級二輪自動車							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. エンジンの部品の名称や、基本的な構造・作動、整備に必要な計算式等を理解することが出来る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	総論	ジーゼル・エンジンの歴史や概要、ガソリン・エンジンとの違いを理解し、説明することが出来るようになる。				四輪・二輪共通		
第2回	総論	電気自動車の概要についての説明が出来るようになる。				四輪・二輪共通		
第3回	エンジン本体	シリンダライナや、ピストン・リングの形状、燃焼室の形状などを理解し、説明することが出来るようになる。				四輪①		
第4回	エンジン本体	バルブ機構の確認やエンジン各部の測定方法、各部のクリアランスが過大または過小の場合エンジンに起こる不具合などを理解し、説明することが出来るようになる。				四輪②		
第5回	潤滑装置	トロコイド式、ギヤ式各オイル・ポンプの違いの確認とオイルポンプの測定方法を理解し、説明することが出来るようになる。				四輪③		
第6回	潤滑装置	エンジン・オイルの性状について説明することが出来るようになる。				二輪①		
第7回	冷却装置	冷却装置の点検整備についての説明が出来るようになる。				二輪②		
第8回	冷却装置	冷却水の濃度の計算方法を理解し、説明することが出来るようになる。				二輪③		
第9回	燃料装置	列型インジェクション・ポンプの各部品の名称、構造・作動を理解し、説明することが出来るようになる。				四輪④(二輪別メニュー)		
第10回	燃料装置	分配型インジェクション・ポンプの各部品の名称、構造・作動を理解し、説明することが出来るようになる。				四輪⑤(二輪別メニュー)		
第11回	燃料装置	コモンレール式高圧燃料噴射装置の各部品の名称、構造・作動を理解し、説明することが出来るようになる。				四輪⑥(二輪別メニュー)		
第12回	点検・整備	圧縮圧力の測定についての説明が出来るようになる。				二輪④		
第13回	点検・整備	エンジン脱着時の留意点についての説明が出来るようになる。				二輪⑤		
第14回	点検・整備	エンジン脱着時の留意点についての説明が出来るようになる。				二輪⑥		
第15回	期末試験	期末試験				四輪・二輪共通		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○					欠格条件
担当教員	住本 直哉			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/sumimoto/			

科目名	シャシ構造 I		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	3級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。 二輪自動車のシャシ関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。							
授業の一般目標	自動車、及び二輪自動車のシャシ関係の構造、作動を習得し、整備するための基礎、基本を理解する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	3級自動車シャシ・三級二輪自動車・シャシ構造 I・II							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 3級シャシ自動車整備士、3級二輪自動車整備士国家試験合格レベルの知識習得を目指す。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	総論	自動車の原理と性能/自動車の構成/自動車の安全装置を理解し、説明できるようになる				四輪・二輪共通		
第2回	総論	日本の二輪車工業の歴史について、説明出来るようになる。				四輪・二輪共通		
第3回	動力伝達装置	四輪車のクラッチについて説明出来るようになる。				四輪①		
第4回	動力伝達装置	四輪車のマニュアル・トランスミッションの構造が説明でき、変速比の計算が出来るようになる。				四輪②		
第5回	動力伝達装置	プロペラ・シャフト、ドライブ・シャフト、デフアレンシャルについて説明出来るようになる。				四輪③		
第6回	動力伝達装置	二輪車のクラッチについて説明出来るようになる。				二輪①		
第7回	動力伝達装置	二輪車のトランスミッションの種類について、作動・構造を説明出来るようになる。				二輪②		
第8回	動力伝達装置	二輪車のトランスミッションについて、作動・構造を説明出来るようになる。				二輪③		
第9回	アクスル及びサスペンション	サスペンションに用いられるスプリングの種類を理解し説明出来るようになる。				四輪④		
第10回	アクスル及びサスペンション	車軸懸架式・独立懸架式サスペンションの構造を理解し説明出来るようになる。				四輪⑤		
第11回	アクスル及びサスペンション	ショックアブソーバの構造を理解し、その作動が説明出来るようになる。				四輪⑥		
第12回	動力伝達装置	駆動装置について、作動・構造を説明出来るようになる。				二輪④		
第13回	動力伝達装置	ベルト式自動無段変速機について、作動・構造を説明出来るようになる。				二輪⑤		
第14回	動力伝達装置	ドライブチェーンについて、作動・構造を説明出来るようになる。				二輪⑥		
第15回	期末試験	期末試験				四輪・二輪共通		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	中澤 輝行			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/			

科目名	シャシ構造Ⅱ		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	3級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。 二輪自動車のシャシ関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。							
授業の一般目標	自動車、及び二輪自動車のシャシ関係の構造、作動を習得し、整備するための基礎、基本を理解する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	3級自動車シャシ・三級二輪自動車・シャシ構造Ⅰ・Ⅱ							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 3級シャシ自動車整備士、3級二輪自動車整備士国家試験合格レベルの知識習得を目指す。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ブレーキ装置	ブレーキの概要およびマスター・シリンダの構造を理解し説明できる。					四輪・二輪共通	
第2回	ブレーキ装置	ドラム・ブレーキの種類と構造の違いを理解し説明できる。					四輪・二輪共通	
第3回	ブレーキ装置	ディスク・ブレーキの構造、自動調整装置の作用を理解し説明できる。					四輪①	
第4回	ブレーキ装置	真空式制動倍力装置の構造を理解し作動を説明できる。					四輪②	
第5回	ブレーキ装置	パーキング・ブレーキ機構の種類、構造を理解し作動を説明できる。					四輪③	
第6回	ブレーキ装置	四輪車と二輪車のブレーキ装置の違いについて理解し、説明出来るようになる。					二輪①	
第7回	アクスル及びサスペンション	フロントとリアのサスペンションについて、作動・構造を説明出来るようになる。					二輪②	
第8回	ステアリング装置	ステアリング装置について、構造を説明出来るようになる。					二輪③	
第9回	ステアリング装置	ステアリング・ギヤ機構、ステアリング・リンク機構について理解し説明出来るようになる。					四輪④	
第10回	ステアリング装置	油圧式、電動式パワー・ステアリングについて構造を理解し作動を説明出来るようになる。					四輪⑤	
第11回	ホイール及びタイヤ	四輪車のタイヤの構造、呼び、ホイールについて理解し説明出来るようになる。					四輪⑥	
第12回	ホイール及びタイヤ	二輪車のタイヤの構造、呼び、ホイールについて理解し説明出来るようになる。					二輪④	
第13回	ホイール及びタイヤ	四輪車と二輪車のホイール・アライメントの違いについて理解し、説明出来るようになる。					二輪⑤	
第14回	ホイール・アライメント	フロント・アライメントについて、必要性、前後輪の関係が説明出来るようになる。					二輪⑥	
第15回	期末試験	期末試験					四輪・二輪共通	
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	中澤 輝行			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/			

科目名	電気工学 I		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	電気の基礎的な内容及び自動車の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 二輪自動車の電装部品の構造、作動について基礎知識を学習する。							
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 二年生の電装授業の基礎となる電気の基礎知識を習得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車工学、三級自動車ガソリンエンジン、三級自動車シャシ、三級二輪自動車							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 基礎自動車工学、三級自動車ガソリンエンジン、三級自動車ジーゼルエンジン、三級自動車シャシの各科目において、三級の自動車整備技能登録試験に合格するレベルまでの電装品の知識を習得する。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	電子、静電気、導体、不導体、半導体	目では見えない電気が流れるとは、どのようなことかを理解し、電気を流す物質と流さない物質を判別できるようになる。				四輪・二輪共通		
第2回	電流、電圧、抵抗、直流と交流、電流の三作用	電圧と電流の違い、交流と直流の違いが説明できるようになる。 また、電流が流れることによって起こる現象が言えるようになる。				四輪・二輪共通		
第3回	合成抵抗の計算方法	抵抗の接続方法によって合成抵抗が変化する理由を理解し、回路の合成抵抗の計算ができるようになる。				四輪①		
第4回	オームの法則、キルヒホッフの法則	電気回路の各箇所の電圧・電流・抵抗値が計算によって答えられるようになる。				四輪②		
第5回	直列及び並列接続時における電気の関係	直列接続時と並列接続時での電圧・電流値の違いがなぜ起こるのか、また各接続方法の長所と短所が説明できるようになる。				四輪③		
第6回	磁気、電流による磁界、コイルについて	永久磁石と電磁石の違いを理解し、コイルに電流を流すとなぜ磁力が発生するのかを説明できるようになる。				二輪①		
第7回	右手親指の法則、フレミングの法則	電流の流れる向きを見て、磁力の極性が答えられるようになる。				二輪②		
第8回	自己誘導作用と相互誘導作用	モータ、発電機、点火装置などの原理となる自己誘導作用と相互誘導作用とは何かを説明ができるようになる。				二輪③		
第9回	半導体	半導体の特性を理解し、各半導体の使用方法が答えられるようになる。 ダイオード、ツェナダイオード、発光ダイオード、ホトダイオード、トランジスタ、サーミスタ、IC				四輪④		
第10回	バッテリーの概要、起電原理	自動車用鉛バッテリーの仕組みを理解し、起電の原理が説明できるようになる。				四輪⑤		
第11回	電解液比重、起電力、容量、自己放電	放電終止電圧とは何かを理解し、容量の計算ができるようになる。 また、自己放電の起こる原理が説明できるようになる。				四輪⑥		
第12回	始動装置の概要	始動装置の種類と、内部の各部品の役目が説明できるようになる。				二輪④		
第13回	始動装置の概要	モータが回転する原理とマグネットスイッチの作動が説明できるようになる。				二輪⑤		
第14回	始動装置の点検整備	スタータ脱着時の注意事項が言えるようになる。 単体のスタータが点検できるようになる。				二輪⑥		
第15回	期末試験	期末試験				四輪・二輪共通		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○					欠格条件
担当教員	三宅 伸和		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/miyake/				

科目名	電気工学Ⅱ		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	電気の基礎的な内容及び自動車の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。 二輪自動車の電装部品の構造、作動について基礎知識を学習する。							
授業の一般目標	エンジンやシャシにも電装品が使用されており、各分野に共通して電気の知識が必要となる。 二年生の電装授業の基礎となる電気の基礎知識を習得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車工学、三級自動車ガソリンエンジン、三級自動車シャシ、三級二輪自動車							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 国家試験三級自動車ガソリンエンジン、ジーゼルエンジン、シャシ合格レベル(電装関係)							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について配線図の読み取りを身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、整備技術を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	充電装置の概要	充電装置の内部の各部品の役目と発電の原理が説明できるようになる。				四輪・二輪共通		
第2回	充電装置の構造	ダイオードによる整流と、ボルテージレギュレータによる発生電圧の制御が説明できるようになる。				四輪・二輪共通		
第3回	点火装置(イグニッションコイル)	イグニッションコイルの種類と特性を理解し、高電圧の発生原理が説明できるようになる。				四輪①		
第4回	点火装置(スパークプラグ、ハイテンションコード)	スパークプラグの種類とその特性が説明できるようになる。				四輪②		
第5回	点火装置(ダイレクト・イグニッション、点火タイミング)	ダイレクト・イグニッション方式の構造、利点が説明できるようになる。 点火タイミングの重要性を理解し、進角する時と遅角する時のエンジンの状態が答えられるようになる。				四輪③		
第6回	点火装置(CDI点火装置)	CDI点火装置の構造、作動原理、利点が説明できるようになる。				二輪①		
第7回	点火装置(トランジスタ点火装置)	トランジスタ点火装置、イグナイタの構造、作動原理、利点が説明できるようになる。				二輪②		
第8回	ヒューズ(ヒューズプルリンク)	切れたヒューズの状態からどのくらいの過電流が流れたかが判断でき、その後の対処方法が答えられるようになる。				二輪③		
第9回	ホーン、ワイパ	ホーンの構造、ワイパが定位置で停止する原理が説明できるようになる。				四輪④		
第10回	リレー	リレーの構造、用途、回路構成ができるようになる。				四輪⑤		
第11回	灯火装置の概要	車両の各灯火装置の役目が答えられるようになる。バルブの種類を理解し、使用されているバルブの選択ができるようになる。				四輪⑥		
第12回	灯火装置の作動	各灯火の作動を理解し、特にディマスイッチ及びライトコントロールスイッチの回路で電気の流れが説明できるようになる。				二輪④		
第13回	灯火装置の作動(前照灯)	2灯式と4灯式の違いを理解し、ヘッドライトの光軸調整の手順が説明できるようになる。				二輪⑤		
第14回	計器類	バイメタル式と交差コイル式及び燃料残量警告灯の作動原理が説明できるようになる。				二輪⑥		
第15回	期末試験	期末試験				四輪・二輪共通		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	三宅 伸和			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/miyake/			

2022年度シラバス

科目名	オートメーション基礎		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動運転や自動ブレーキなどの日々進化を続ける最新技術に対して、各メーカーの考え方や技術を理解する。オートメーション化に使用されているセンサやECUの制御、センサの調整方法などを理解し、自動車整備士に必要な知識を学習する。							
授業の一般目標	1、整備士に必要な自動運転、自動ブレーキの知識を身につける。 2、センサやECUについての基本知識を身に付け、整備方法を学習する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	なし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1、自動運転の基本が理解できること。2、自動ブレーキの基本が理解できること。3、オートメーションについての幅広い内容が理解できること。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1、自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1、進化する最新技術に関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1、自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	概要	オートメーションについての幅広い内容を理解し説明できるようになる。						
第2回	自動ブレーキシステム	自動ブレーキに関する考え方や、関わる法律を理解し説明できるようになる。						
第3回	自動ブレーキシステム	各メーカーの取り組み、違いについて理解し説明できるようになる。						
第4回	自動ブレーキシステム	自動ブレーキに関わるセンサの種類、構造、作動を理解し説明できるようになる。						
第5回	自動ブレーキシステム	自動ブレーキに関わるセンサの制御を理解し説明できるようになる。						
第6回	自動ブレーキシステム	安心安全に関わる、その他のシステムについて理解し説明できるようになる。						
第7回	自動ブレーキシステム	各センサの初期化、調整方法について理解し説明できるようになる。						
第8回	確認試験	小テストを行い、解答、解説を実施。						
第9回	自動運転システム	自動運転に関する、考え方や技術について理解し説明できるようになる。						
第10回	自動運転システム	自動運転に対する各メーカーの取り組み、違いについて理解し説明できるようになる。						
第11回	自動運転システム	自動運転に関わるセンサの種類、構造、作動を理解し説明できるようになる。						
第12回	自動運転システム	走る、曲がる、止まるを制御する技術について理解し説明できるようになる。						
第13回	自動運転システム	走行環境の認知、判断技術について理解し説明できるようになる。						
第14回	自動運転システム	航法に関する認知、判断技術について理解し説明できるようになる。						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	村田 拳人			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/murata/			

科目名	シヤン整備 I		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	2級自動車シヤン編の教科書に基づきシヤンに関する構造及び機能についての知識を身につける。							
授業の一般目標	整備士として必要なシヤンの構造、作動等の知識を体得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	2級・3級ガソリン・ディーゼル自動車シヤン編および、シヤン構造 I・II							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 国家2級整備士合格レベルになるよう教科書に則した内容を知識を身につける。 2. 就職後に必要な整備士としての知識や社会貢献するための責任、倫理観を身につける。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	総論	走行抵抗の各抵抗を理解する。又、駆動力と走行抵抗から最高速度や最大駆動力を読み、余裕駆動力を求め出せるよう、走行性能曲線図が読める。						
第2回	動力伝達装置	MTのクラッチ伝達容量がわかり、ATのトルクコンバータの原理と性能曲線図が読める。速度比、トルク比、伝達効率が計算できる。						
第3回	動力伝達装置	プランナリ・ギヤ式4速ATの構成部品とプランナリ・ギヤの計算ができる。						
第4回	動力伝達装置	プランナリ・ギヤ式4速ATの動力伝達 P・N及びRレンジ、1レンジ1速・Dレンジ1速の動力伝達の順序がわかり色塗りができる。						
第5回	動力伝達装置	プランナリ・ギヤ式4速ATの動力伝達 Dレンジ3速、Dレンジ4速、Dレンジ2速の動力伝達の順序がわかり色塗りができる。						
第6回	動力伝達装置	電子制御機構と油圧制御機構概要とDレンジの自動変速線図が読める。						
第7回	動力伝達装置	ATのロックアップ機構、安全装置の作動や機構、ATの整備(ストールテストを含む)が説明できる。CVTの機構と作動が説明できる。						
第8回	動力伝達装置	差動制限型デファレンシャル、インタ・アクスル・デファレンシャルが説明できる。						
第9回	アクスル及びサスペンション	サスペンションの性能、ボデーの振動及び揺動、異音、乗り心地を説明できる。						
第10回	アクスル及びサスペンション	金属、エア・スプリング型サスペンションの特徴を説明できる。						
第11回	アクスル及びサスペンション	エア・コンプレッサの構成部品及び作動を説明できる。						
第12回	アクスル及びサスペンション	電子制御式サスペンション、ショックアブソーバ式とエアサスペンションが説明できる。						
第13回	ステアリング装置	旋回性能(コーナリングフォースとスリップアングル)が説明できる。						
第14回	ステアリング装置	油圧式パワーステアリング、コントロールバルブ作動及びポンプの機構と作動が説明できる。						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	中澤 輝行			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/			

科目名	シャシ整備Ⅱ		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	2級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。							
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの構造、作動等の知識を体得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	2級・3級ガソリン・ディーゼル自動車シャシ編および、シャシ構造Ⅰ・Ⅱ							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 国家2級整備士合格レベルになるよう教科書に則した内容を知識を身につける。 2. 就職後に必要な整備士としての知識や社会貢献するための責任、倫理観を身につける。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ホイール及びタイヤ	ホイールの種類と機能、タイヤのたわみとバランスについて説明できる。						
第2回	ホイール及びタイヤ	タイヤの走行音、タイヤの異常磨耗について、種類や原因を説明できる。						
第3回	ホイール・アライメント	キャンバ、キャスタ、キングピン傾角について説明できる。						
第4回	ホイール・アライメント	トー、切れ角、サイドスリップ、軸スリップについて説明できる。						
第5回	ブレーキ装置	ブレーキの性能、制動距離、制動時の不具合現象が説明できる。						
第6回	ブレーキ装置	ABSの構成部品及び作動が説明できる。						
第7回	ブレーキ装置	トラクション・コントロールの構成部品及び作動が説明できる。						
第8回	ブレーキ装置	エア・油圧ブレーキの構成部品について説明できる。						
第9回	ブレーキ装置	ブレーキ・バルブ及び圧縮空気式制動倍力装置の作動が説明できる。						
第10回	ブレーキ装置	フル・エア式ブレーキについて説明できる。						
第11回	ブレーキ装置	エキゾースト・ブレーキ、エディカレント・リターダが説明できる。						
第12回	フレーム及びボデー	トラック・フレーム、モノコック・ボデーの特徴について説明できる。						
第13回	フレーム及びボデー	ボデーの安全構造及びフレームの補強について説明できる。						
第14回	受験対策練習問題	国家試験の問題と解説 シャシ全般						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	中澤 輝行			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/nakazawa-2/			

科目名	故障探究		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車の各装置の基本構造と機能を理解した上で、故障の原因を知り故障探究の進め方を学ぶ。							
授業の一般目標	国家資格である、二級ガソリン自動車整備士を取得できる知識を身に付ける。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	自動車の故障と探究							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1.各装置の故障原因を理解し故障探究が出来るようになる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1.自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1.自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1.受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。確認試験にて70%未満の者は補習を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	故障と探究	故障の発生状況(故障と使用経過年数、定期点検と整備内容) 故障原因探究の手法、点検修復作業						
第2回	ガソリン・エンジンの故障原因と探究	ガソリン・エンジンの基本的な点検 ガソリン・エンジンの故障原因探究の進め方						
第3回	電子制御式燃料噴射装置の故障原因と探究①	電子制御式燃料噴射装置に特有の点検						
第4回	電子制御式燃料噴射装置の故障原因と探究②	電子制御式燃料噴射装置の故障原因探究の進め方						
第5回	ジーゼル・エンジンの故障原因と探究	ジーゼル・エンジンの基本的な点検 ジーゼル・エンジンの故障原因探究の進め方						
第6回	電装品の故障原因と探究①	電気回路の点検 指針装置、充電装置の故障原因の探究						
第7回	電装品の故障原因と探究②	メータ、ランプ、エアコンの故障原因の探究						
第8回	小テスト	小テスト						
第9回	シャシの故障原因と探究①	動力伝達装置(クラッチ、トランスミッションディファレンシャル)の故障原因の探究						
第10回	シャシの故障原因と探究②	緩衝装置(サスペンション)、操舵装置(ステアリング)の故障原因の探究						
第11回	シャシの故障原因と探究③	制動装置(フット・ブレーキ、制動倍力装置、ABS、タイヤ、ホイール)の故障原因の探究						
第12回	自己診断機能による点検	外部診断機を活用し故障診断が出来るようになる ハイブリッド車の診断及び整備が出来るようになる						
第13回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説						
第14回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70% 小テスト15% 態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	村田 拳人			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/murata/			

科目名	工作作業実習	単位数	1	学科	一級自動車整備科			
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	前期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各種機械工作機器・作業用工具等の使用方法、取り扱いを習熟させる。 電子工作から、プログラム制御を理解させる。							
授業の一般目標	・機器類や作業用工具の取り扱いを習熟させ基本を理解させる。 ・電子工作から、プログラミングの基礎を理解させる。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車整備作業、自動車整備工具・機器							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 安全作業・整理・整頓・清掃を徹底することの必要性を理解する。 2. 機器類の取り扱いの理解度を向上させる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で実技試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容			備考			
第1回	ねじ切り作業	タップ及びダイスの取り扱い、ねじのピッチについて理解する。 ボール盤の取り扱いについて理解し、安全作業を身につける。						
第2回	電子工作 (プログラミング)	プログラミングの基礎を理解する。 電子回路を作成し、プログラムを書き込み、電子部品を制御する。						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験								秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品	○	○	○		◎		70	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	村田 拳人			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/murata/			

科目名	測定作業実習		単位数	1	学科	一級自動車整備科		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	計測機器の基本的な取り扱い及び測定作業とその応用ができるように習熟させる。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な測定技術を習熟する。 ・安全な作業と整理整頓について理解する。 							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	基礎自動車整備作業、自動車整備工具・機器							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 安全作業、整理整頓の習得 2. 各種測定機器等使用方法・取り扱い・測定技術の習得							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士としての基礎となる測定技術と安全作業を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で実技試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	測定機器の取り扱い	1. ノギスの説明後、ノギスによる部品測定作業 2. 安全作業について理解する						
第2回	測定機器の取り扱い	1. マイクロメータの説明後、マイクロメータによる部品測定作業 2. ダイヤルゲージの説明後、ダイヤルゲージによる部品測定作業 3. シリンダゲージの説明後、シリンダゲージによる部品測定作業						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	村田 拳人			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/murata/			

科目名	シャシ実習 I		単位数	6	学科	一級自動車整備科		
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	シャシの基本実習を行うことにより、整備の基礎知識や基礎技術の習得を図る。							
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの基礎知識を身につける。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	3級ガソリン・ディーゼル自動車シャシ編、シャシ構造 I 及び II、各整備要領書							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 国家3級整備士試験合格レベルの技術を身につける。 2. 就職後の仕事に差し支えない整備士としての基礎知識を体得する。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	ホイール及びタイヤ	四輪のホイール及びタイヤの呼称、タイヤの構造の違いを説明できる。 タイヤの脱着及びホイール・バランスが調整できる。 チューブ・タイプとチューブ・レスのタイヤのパンク修理ができる。						
	ホイール及びタイヤ	二輪のホイール及びタイヤの呼称、タイヤの構造の違いを説明できる。 タイヤの脱着及びホイール・バランスが調整できる。 チューブ・タイプとチューブ・レスのタイヤのパンク修理ができる。						
第2回	ブレーキ装置	四輪のブレーキ装置真空式制動倍力装置の作動が説明できる。 ブレーキの種類と構造、機能が説明できる。 ドラム・ブレーキとディスク・ブレーキ分解・組立とシールの交換ができる。						
	ブレーキ装置	二輪のブレーキ装置の作動が説明できる。 ブレーキの種類と構造、機能が説明できる。 ドラム・ブレーキとディスク・ブレーキ分解・組立とシールの交換ができる。						
第3回	動力伝達装置	トランス・ミッションの構造、機能と4速MT分解・組立ができる。 シンクロ・メッシュ機構、インタ・ロック機構が説明できる。 トランスファの分解・組立ができる。 FFトランスアクスルの分解・組立ができる。						
	アクスル及びサスペンション	各種サスペンション型式の違いが説明できる。 ストラット、スプリングの分解、組付けができる。						
第4回	動力伝達装置	自動車の歴史、動力伝達装置 クラッチの構造、機能と分解及びクラッチ・ディスクの測定ができる。 コイル・スプリング式クラッチ・カバーの分解・組立ができる。 スプリングの計測及びレバラーの調整ができる。						
	動力伝達装置	ドライブ・シャフトとプロペラ・シャフトの構造が説明できる。 ファイナル・ギヤ及びデファレンシャル・ギヤの分解、組立、調整ができる。						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト							評価なし	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	小林 建次			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/kobayashi-2/			

科目名	シャシ実習Ⅱ		単位数	6	学科	一級自動車整備科		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地識や技術の向上を図る。 不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。							
授業の一般目標	整備士として必要なシャシの知識を身につける。 故障診断作業の技術を習得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	二級・三級ガソリン・ジーゼル自動車シャシ編、シャシ構造Ⅰ及びⅡ、各整備要領書							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 国家2級整備士試験合格レベルになるよう教科書等に則した内容の技術を身につける。 2. 就職後の仕事に差し支えない整備士としての基礎知識を体得する。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	動力伝達装置	オートマチック・トランスミッションの基礎・各構成部品の構造と働き、動力伝達、変速比が説明できる。 オートマチック・トランスミッションの応用4速ATの分解組立作業ができる。 動力伝達、電子制御AT及びロックアップ機構が説明できる。 CVTの動きを見る。 ドライブシャフトの車両からの脱着及びオーバーホールが作業ができる。						
第2回	動力伝達装置	差動制限型ディファレンシャル・ギヤの分解・組立ができ、ノーマルデフとの違い及び差動が説明できる。						
	ステアリング装置	油圧式及び電動式パワー・ステアリングが説明できる。 油圧式PSラック・ピニオン型、インテグラル型、リンケージ型の分解組立ができる。 ギヤ・ボックスのコントロール・バルブ部比較とオイル・ポンプ分解組立ができる。						
第3回	ブレーキ装置	エア・油圧式、フルエア式ブレーキの違いを説明できる。 ブレーキ・バルブ、リレー・バルブ、制動倍力装置の構造、作動を説明できる。						
	ホイール・アライメント	ホイール・アライメントの各要素を理解する。 CCKゲージ、ターニング・ラジアン・ゲージを用いた測定ができる。						
第4回	総合復習及び、国家試験受験対策	習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト		○					15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品					◎		評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	小林 建次			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/kobayashi-2/			

科目名	電装実習Ⅱ		単位数	6	学科	一級自動車整備科		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	1年次に習得した基礎知識を土台に応用力を身に付け整備技術、能力の幅を広げる。 電気回路の故障診断に必要な外部診断機、テスタ類の取り扱いが出来る技術を習得させる。							
授業の一般目標	整備士として必要な電気の基礎を身に付け故障診断ができる技術を習得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	国家2級ガソリンエンジン、ジーゼルエンジン、電装品構造、基礎自動車工学。							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 配線図の読み取り方法							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べるができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	始動 充電装置	<p>実車を利用してスタータ・モータの脱着 車上山検・単品部品の分解、点検測定、組み立てが出来ようになる。オルタネータ、ボルテージレギュレーターの構造、作動 車上のオルタ・ネータを脱着し発生電圧を測定、中性点ダイオード付きオルタ・ネータ出力特性が説明できるようになる。</p> <p>ハイブリッド車等に使用されるジェネレータについて、制御方法を理解し説明できるようになる。</p>						
第2回	点火装置 空調装置	<p>点火時期の確認 車上山火装置の取り外し、各部点検、イグナイタの点検。 実車を使用してエアコンガスの入れ替え、各部部品名、役割の確認、コンプレッサの分解組付けが出来ようになる。</p> <p>ステッピングモータの制御方法を理解し、プログラミングにより動作させることが出来るようになる。</p>						
第3回	安全装置 故障探究	<p>実車両の不具合故障診断、点検 配線図の読み取り方法 車両取り扱いの方法</p>						
第4回	総合復習及び、国家試験受験対策	<p>習熟度確認試験と解説及び、模擬試験の実施と解説</p>						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト		○					評価なし	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	15	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品					◎		定期試験に含む	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	三宅 伸和			実務経歴紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/miyake/			

科目名	総合実習 I	単位数	3	学科	一級自動車整備科			
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	必修	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車の日常点検及び新車無料点検の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明出来る応酬話法を身につける。整備士として必要な知識でもある、積載車(ウインチ)の取り扱いについて学習し安全作業を身につける。また、自動車以外の幅広い知識を身につける為、二輪自動車の構造を学習する。							
授業の一般目標	1. 二輪自動車の構造を学習し、四輪自動車との違いを理解する。 2. 自動車の日常点検及び新車無料点検を理解し、作業説明応酬話法を身に付ける。 3. 積載車(ウインチ)の取り扱いについて学習し、安全作業を身に付ける。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	三級二輪自動車、二級二輪自動車 自動車定期点検の手引き、三級シャシ、三級自動車ガソリン・エンジン							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 二輪自動車を分解・測定・組付けをして、構造・作動について理解する。 2. 自動車の日常点検や新車無料点検を反復練習して点検の流れを身につける。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で実技試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	四輪・二輪自動車の日常点検	日常点検および新車無料点検の内容を理解し正確に作業を行う。 点検結果の良否を判断し、不具合箇所については必要な整備作業を行う。 点検で行なった作業内容を伝え、点検結果をお客様に説明する。						
第2回	自動車の定期点検作業 (作業説明応酬話法の実施)	定期点検の内容を理解し正確に作業を行う。 点検結果の良否を判断し、不具合箇所については必要な整備作業を行う。 点検で行なった作業内容を伝え、点検結果をお客様に説明する。						
	積載車(ウインチ)の取り扱い	積載車(ウインチ)の取り扱いについて理解する。 積載車(ウインチ)の安全作業を実施。						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	◎		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト							15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	村田 拳人			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/murata/			

科目名	総合実習Ⅱ		単位数	4	学科	一級自動車整備科		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車の定期点検整備の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明するだけでなく整備士として、お客様へ車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスが出来るよう接客応酬話を身につける。日々進化する自動車の自動運転や自動ブレーキ技術に使用されている電装部品(センサなど)に対しての、調整方法を学習し実施する。また、自動車の点検方法だけではなく二輪自動車の点検方法を理解し知識を身につける。							
授業の一般目標	1. 二輪自動車の点検方法を学習し、四輪自動車との違いを理解する。 2. 自動車の定期点検整備の内容を理解し、お客様への適切なアドバイスが出来る接客応酬話を身につける。 3. 自動車の最新技術に使用されているセンサなどの調整方法を理解し作業が出来るようになる。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	自動車定期点検の手引き、シヤン構造Ⅰ及びⅡ、二級二輪自動車							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 定期点検整備を記録簿に基づいて点検の流れや項目を理解し、作業や各部品の良否判断が出来るようになる。 2. 四輪自動車と二輪自動車の点検整備の違いを理解する。 3. 自動車の最新技術に対して必要な作業と知識を身につける。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行う。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	二輪自動車の点検作業	二輪自動車の点検整備内容を理解し正確に作業を行う。 点検結果の良否を判断し、不具合箇所については必要な整備作業を行う。 点検で行なった作業内容を伝え、点検結果をお客様に説明する。						
第2回	定期点検整備作業 (接客応酬話の実施) 車載カメラの調整 (エーミング作業について)	定期点検整備作業(12ヶ月点検)の手順を理解し良否の判断を行う。 特定整備の概要説明、各メーカー車両にて点検作業を実施する。 お客様へ車のメンテナンスや安心安全へのアドバイスを行う。 インカムを使用し、実際の現場に即した実習を行う。加えてタブレットを活用したアドバイスの実施や提案が出来るようになる。						
		最新技術に使用されている、車載カメラやセンサの調整作業。						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト							15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品					◎		評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	村田 拳人			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/murata/			

科目名	検査作業実習		単位数	2	学科	一級自動車整備科		
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	自動車の車検、検査作業の知識と技術を習得する。							
授業の一般目標	自動車の車検作業の技術を身につけ記録簿の記入が出来るようになる。 検査作業の知識を身につけて、検査機器を使用して測定、調整の技術を習得する。							
受講条件	出席率90%以上							
事前学習について (テキスト・参考書等)	自動車定期点検の手引き、法令教材、二級自動車シヤシ、三級自動車シヤシ、二級二輪自動車							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 自動車整備作業の記録簿の記入や、検査の実務が出来るようになる。2. 車検整備作業の箇所と流れが分かり基準を基に正確な整備作業が出来るようになる。3. 検査する箇所の測定、点検、調整が検査機器を使用して出来るようになる。4. 自動車の保安基準が理解出来るようになる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	1. 自動車整備について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	1. 自動車整備に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	1. 受講を通して自動車整備士として必要な人間性を身に付ける。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. 自動車整備士として必要な整備技術と説明力を身に付ける。							
授業計画(全体)								
各分野の終了時点で確認試験を行なう。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	四輪・二輪自動車の車検作業	検査作業が記録簿に基づいて作業が出来、部品の良否判断や各部の点検、調整が出来るようになる。 点検記録簿は下記の3種類の方法をマスターする。 ①音声入力による記入。 ②タブレット入力による記入。 ③手書きによる記入。						
第2回	四輪・二輪自動車の検査作業	検査ラインを使用しさまざまな検査機器の使用方法和測定、調整の技術を習得して、自動車検査員の業務を理解し保安基準適合証の記入が出来るようになる。						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点 出席率90%以上 本試験70%、レポート点15%、態度点15%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○		○	◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト							15	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート	◎		○			○	評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			15	可(D):69点~60点
発表・作品					◎		評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	村田 拳人			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/voice/murata/			